

窓



法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 同窓会会報

法士会報

第18号

2017年1月●日

発行所：法政大学デザイン工学部
都市環境デザイン工学科 同窓会
〒162-0843 東京都新宿区市谷町 2-33
TEL・FAX (03) 5228 1406
発行人 山口 明
編集人 会報編集委員会

会長メッセージ

都市環境デザイン工学科同窓会(法士会)会長 山口 明

都市環境デザイン工学科同窓会(法士会)会長を仰せつかっております1975年(昭和50年)卒業の山口です。法士会報第18号発行にあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

近年、東日本大震災をはじめ日本列島においては様々な災害等にみまわれ、国民の生命、財産に対し多くの被害が発生しています。今年に入ってからだけでも4月の熊本地震、10月の鳥取地震や阿蘇山の噴火など多く災害にみまわれております。同窓会関係者で災害に遭われた方がいらっしゃいましたら心からお見舞い申し上げます。我々土木に携わる者は、官民を問わず、公共・公益に資する社会資本の整備を通じて、豊かな国民生活や円滑な産業活動を築くことを志していることに違いはないと思います。社会資本の整備や復旧など困難を乗り越えていく場面が今後とも数多くあるかと思いますが、我々法政の卒業生が連絡を密にして、その一端を担っていきたいと思います。

さて、会長を仰せつかった時、次の目標を立てて同窓会活動に取り組んでまいりました。一つ目は「会員数の増強と会員間の連携の強化」、二つ目は「大学側との連携強化」、三つ目は「同窓会の役割の再構築」です。どの目標も課題も多く一朝一夕で乗り越えられるものではありませんが、大学側のご理解ご協力と同窓会役員の地道な努力で一歩一

歩前へ進んでいると感じられます。具体的には、就職活動に関する「卒業生と学生の意見交換会」が大学の授業の一環として、同窓会と連携して行われるに至ったことです。また、「社会学セミナー」も多く卒業生に加え、在学生が聴講してくれるようになりました。さらには、卒業生の情報についても収集実績を積み重ねており、卒業生間の情報交換や会員数の増加も期待できます。どれも同窓会だけではできることではなく、大学側のご理解ご協力を得てできることです。心より感謝とお礼を申し上げるとともに、今後とも一層の連携をお願い申し上げます。

最後になりましたが、2014年度から会長を仰せつかってまいりましたが、今年度で任期の3年間を満了することとなりました。この間の大学側と多くの卒業生のご理解ご協力に対し深く感謝申し上げますとともに、今後の都市環境デザイン工学科の益々の発展と同窓会活動の一層の充実を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



都市環境デザイン工学科近況

都市環境デザイン工学科 学科主任 教授 道奥 康治

本学への着任3年目、勝手の違いに戸惑いながらも皆様のご支援を頂き、ヨチヨチと本年度の学科主任業務を進めております。皆様におかれましては常日頃より当学科への暖かいご支援・ご鞭撻を賜り深く感謝申し上げます。本年3月には74名の学生を社会・大学院に送り出し、4月に84名の新生を迎えました。例年10～20%で推移する公務員への就職が昨年度は40%近くへと急増し、建設会社にはわずか4%とアンバランスな進路構成でありました。他方、大学院進学率の低い状態が続いており、他学に互する人材を輩出し研究を通して本学のプレゼンスを高めるためには、大学院進学を促進

しなければなりません。これらキャリア指導の課題について法士会様とも問題意識を共有し、キャリアデザインセミナーの企画運営に対するご支援を賜っております。本学を巣立つ後進に対し先輩諸兄のご厚情を引き続き賜りますことをお願いしまして、粗略ながら教室の近況ご報告に替えさせていただきます。



—『卒業生と学生との意見交換会』開催報告—

5回目となる『卒業生と学生との意見交換会』を2016年12月17日(土)に開催しました。この会は、次年度に就職活動を行う学部3年生及び修士1年生を対象としたものです。

第一部では、直近5年以内の卒業生4名と4年生(内定者)及び修士2年(内定者)の計6名によるパネルディスカッションを実施しました。第二部では、建設業界を4つの分野(官

公庁・ゼネコン・コンサル・その他)に分けて、それぞれの仕事の内容説明や、学生が不安に思っている進路や就活への心構え及び勉強方法などに対して90名の卒業生がアドバイスをを行いました。この意見交換会が、学生の今後の進路について道筋になれば幸いです。

山田 誉(1991年卒 理事)

特 集

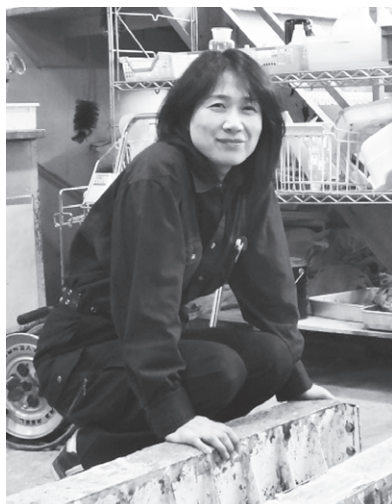
活躍する女性技術者・◇・◇・◇

老若男女大歓迎! 「(一社)土木技術者女性の会」

一般社団法人 土木技術者女性の会会長 (月の泉技術士事務所) 渡辺 弘子 (1987年卒)

みなさん、「一般社団法人 土木技術者女性の会」をご存知でしょうか? 女性の会が発足したのは1983年1月1日で、奇しくも私が大学に入学したその年初でした。入学してすぐにコンクリート実験室の田中弘先生から「こんな会ができたよ」と教えていただいたことを鮮明に覚えています。土木業界にそんなに女性が少ないとは想像しておらず、そのような会が必要なのだとすることに驚きました。そんな私も大学卒業後に入会し、あれから33年。当初30数名で発足した会は、現在全国に300名ほどの会員がいます。

「女性ばかり集まって何をしているの?」と良く聞かれます。会の目的の第一項は発足当初から「土木界で働く女性技術者同士のはげましあい」です。今で言うところの「女子会」でしょうか。楽しいんです。あ、もちろん、それだけではありません。女性技術者がトンネル現場で働くことができるよう社会に対して坑内労働規制緩和の働きかけもしてきましたし、建設現場での環境改善にも取り組んでいます。2014年には、男女共同参画社会の実現に向けての功績が認められ「内閣府 女性のチャレンジ賞」も受賞しました。後進の育成では他団体と連携し、若



手技術者や大学生に向けた書籍や冊子の発行、「女子中高生夏の学校」における中高生とその保護者へのキャリア相談など、あの手この手で優秀な人材を建設業界に呼び入れ、留まらせる工夫をしています。

女性の会では、2016年6月からサポーター制度を拡充しました。男性でも女性でも個人でも団体でも、年会費一口3,000円で私たちの活動をサポートしていただくことができます(何口でも歓迎です)。1回の飲み代より安い値段で、総会の傍聴(年1回)や現場見学会など一部のイベントへの参加(年複数回)ができ、活動状況を知らせるメールニュース(2ヶ月に1回)が届き、名刺に「サポーター」と入れていただくことができます。さらに、全国300名の女性の会会員(学生会員もいます)に日々感謝されます。「土木技術者女性の会」のホームページから入会申込みができますので、ぜひ検索してみてください。皆さんのご支援、ご参加を心よりお待ちしております。



若手技術者へのロールモデル集
『継続は力なり』



大学生への就職支援冊子
『Civil Engineer への扉』

子育て世代編

日本工営株式会社 黒川 信子 (1997年修士課程修了)

私は、1997年3月に大学院を卒業、日本工営株式会社に就職し、20年!が過ぎようとしています。産・育休で約2年半お休みをいただきましたが、子供たちが小学高学年になったこともあり、最近は業務と並行して土木学会活動にも取り組んでいます。業務は主に、シールド工法、地震防災(耐震)です。シールド工法では、新工法の検討、シールド事故の一要因である施工時荷重の検討、維持管理の検討と、時代のニーズに即した内容に継続的に携わることができました。土木学会活動では、「トンネル標準示方書」の改定や「土木ふれあいフェスタ」の商業施設での開催等を行っています。

入社当時、女性技術者数は少なく、結婚・子育て等の理由で辞職する方が多数でした。仕事と家庭の両立は大変ですが周囲に頼り、仕事への多少のブレーキを受け入れ、乗り越えることができます。子育ては想像以上に楽しいですよ。各社が取り組んでいるWLB(ワークライフバランス)

の向上、ダイバーシティの推進といった制度の充実が両立の後押しとなることを期待しています。



◆ ◆ ◆ ◆ 活躍する女性技術者

官公庁編

国土交通省関東地方整備局 柳 沢 佳奈子（2012年修士課程修了）

平成23年度に卒業し、国土交通省に入省して5年目となりました。学部・院と故岡泰道教授に師事し、研究や勉学の指導はもちろんのこと、現場見学や他大学との交流の場等、貴重な機会を数多く提供していただきました。今の自分がある（地がひどいので、多少なりともまともな人間になれた）のは、岡教授の御陰と、深く感謝しているところです。

現在は、企画部技術管理課という部署におりまして、建設業界全体の施策等に取り組んでいます。高齢化が進む当業界の担い手確保・育成の支援やi-Constructionの推進、またそれに併せて、現場の魅力発信等を行っています。現場経験が

河川事務所に3年間いただけの私にとっては、苦勞する部分もあり、上司から白い目で見られることもしばしばですが、関東地整としての動きがわかり、それを進めていく、おもしろい部署でもあります。

まだまだ勉強することが多く、思い通りにならないことばかりですが、これからの建設業界を盛り上げて行くべく、取り組んでいきたいと思っています。



コンサルタント編

株式会社エイト日本技術開発 加 藤 ひろみ（2012年卒）

私は平成24年に卒業し、同年、株式会社エイト日本技術開発に入社しました。入社以来、橋梁の設計をしており、今年で5年目になります。業務の内容としては、橋長の設定、橋種選定等の基本的な検討（予備設計）や、構造計算を行い図面と数量を作成する詳細な検討（詳細設計）等です。

構造力学、水理学、地盤工学や、道路、橋、河川の法令等の幅広い知見が橋梁の設計を行う上で必要になりますが、最初は分からないことだらけでした。実務を通して学んだり、社内外の講習会に参加したりすることで、少しずつ身に着けてきましたが、まだまだ勉強の日々です。また、上司・

先輩方からは「100年後に残る構造物として」「多くの人の税金で作る構造物として」恥ずかしくないものを設計しなくてはならない、という技術者としての姿勢も学びました。

最近は任せられる仕事の幅が広がり、自分が主体となって取り組む業務も増えてきており忙しいですが、忙しさの中に充実感を得ています。



ゼネコン編

前田建設工業株式会社 藤 村 涼子（2010年卒）

前田建設工業株式会社、中部支店、環状梅之郷作業所に赴任している藤村涼子です。入社7年目となり、応援現場も含め現在3現場目です。日々の業務は、朝礼の進行から始まり、現場での安全・品質・出来形・写真管理や測量に加え、協力会社との打合せや連絡調整、近隣住民への対応、発注者提出書類の作成など盛りだくさんです。

私は入社以前から現場配属を希望しており、これまで幸いなことにずっと現場勤務です。しかし、悩んだ時期もありました。入社2年次頃、知識・経験とも少ないためか、協力会社の職人さん達が、私ではなく上司にばかり質問をしていました。「私でも返答出来るのに！」と、とても悔しい思いをしたことを覚えています。また、上司もなかなか担当を任せられず、どうしたらみんなに認めてもらえるのかなと日々悪戦苦闘しました。原因と思われる知識不足と経験不足を補うため、不明な点は上司、職人さん問わず質問をしたり、資

格を取得して知識も箔も身に付けました。また、周囲の人々と日々のコミュニケーションを積極的にとることで、徐々にみんなの信頼を得ることが出来るようになりました。

私は、建設途中の橋梁を見て、どのように造るのかなと興味を持ったことがきっかけで、次第に自らも造ってみたいと思うようになり、ゼネコンを志望しました。実際に現場で施工管理に携わると、自らの計画したように現場が進行していくときや、より良い構造物を施工するという信念の基、発注者・元請け・協力会社のみんなが一致団結し、様々な困難を乗り越えて構造物が完成した時には、もの凄く達成感を感じます。

今後、自らが造った構造物が多くの方々に利用されたり、現場見学会などを通して建設業の魅力を少しでも伝えることができ、様々な人に興味を抱いてもらえれば嬉しいと思います。

法政大学 理系同窓会ホームページ

<http://133.25.196.100/joomla3201/index.php>法政大学 デザイン工学部
都市環境デザイン工学科 同窓会（法士会）ホームページhttp://civil.ws.hosei.ac.jp/wp/shinro_tokuchou/alumni_association

退職を迎えるにあたり

都市環境デザイン工学科 教授 森田 喬



東小金井の工学部の学部長室を訪れて新任のご挨拶をしたのは、今から22年前の1994年のことでした。当時の1学年の定員は128名でした。また、多摩キャンパスにも工学部の校舎があり、特に1年生科目を中心に授業が行われていました。小金井キャンパスではまだ教室に冷房設備がなく、

夏には大汗をかいて授業を行っていたことを思い出します。

2004年に学科名が土木工学科から現在のものになり、2007年からはデザイン工学部が発足し学年進行と共に4年かけて市ヶ谷に展開し学科定員も80名となりました。この間、女子学生の数が増え、学生気質も、粘っこく拘りを持つタイプから、あっさりとしかしバランスを重視するものへと変化していきました。

今後は、国際化・ネットワーク化と日本らしさとの調和な

ど新たな時代環境が待っているように思えます。当学科の持ち味を十分に発揮し益々発展することを祈念しています。長い間本当にお世話になりました。

【会報編集委員より】

森田教授の退職にあたり、最終講義ならびに記念祝賀会を予定しています。お誘い合せの上、是非ご出席ください。

1. 森田教授の最終講義

日時：2017年2月25日（土）16:30～18:30

会場：富士見ゲートG503教室〔5階〕

（市ヶ谷キャンパス内に2016年8月竣工した新校舎）

講義タイトル：「空間コミュニケーションの可能性」

申し込み：事前申し込み不要

2. 記念祝賀会

日時：2017年2月25日（土）19:00～21:00

会場：ボアソナード・タワー A会議室〔26階〕（市ヶ谷キャンパス内）

会費：10,000円

申し込み：下記事務局まで

【問合せ先】

森田研究室OBOG会事務局 今井裕久（2000年修士課程修了）

hirohisa.imai.65@k.hosei.ac.jp

東北地区同窓会の開催報告

東北地区同窓会を土木学会仙台大会に合わせ、9月8日「ハーネル仙台」で開催しました。当日は夕方からの暴風雨にかかわらず、先生6名、学生17名、卒業生19名、総勢42名の参加となりました。

名称変更・役員改選の後、新会長並びに森猛デザイン工学部長のご挨拶で総会を終了、溝渕先生による乾杯のご発声で懇親会に入りました。法土会の蛭川幹事の挨拶、先生方のご紹介、卒業生のスピーチに時間を費やし、学生さんの時間が心配になる程の盛況となりました。赤松英文副支部長（1973年卒）のエールで校歌斉唱し、若者は明日の準備に、卒業生は二次会にと名残惜しくも閉会となりました。

大森精二（1971年卒 宮城県幹事）



—社会工学セミナーの開催報告—

社会工学セミナーは、卒業生皆様の学生時代の友との再会の場、現在抱えている業務の情報交換の場として開催しています。今年度は昨年7月12日に法政大学市ヶ谷田町校舎にて開催されました。

大学から森田喬教授に長年のご研究を総括したご講演と、卒業生からは気象研究所の仲江川敏之さん（1991年卒）に日頃のご研究を講演していただきました。仲江川さんの講演では来日中のパナマ工科大学Reinhardt Pinzon博士にも話題提供して頂きました。講演内容を以下に示します。

講演題目

I. 「空間情報・伝達分野の過去・現在・未来」

法政大学都市環境デザイン工学科教授 森田 喬

II. 「パナマ運河と気候変動～国際研究協力を通してパナマを覗く～」

気象庁気象研究所主任研究官 工学博士 仲江川 敏之氏

講演終了後は、現役学生、若手、ベテランの卒業生を併せて60名程で近場の食堂で懇親を深め、有意義な時間を過ごしました。これからも、より一層この社会工学セミナーが活用されますことを願っておりますので、多くの卒業生皆様のご参加をお待ちしています。

蛭川愛志（1984年卒 理事）



編集後記

本号では、活躍する女性技術者を特集に位置付けて紙面構成を進めました。が、いかがでしたでしょうか。女性活躍社会が叫ばれる中、益々、彼女たちが生きいきと働くことができる環境づくりが求められています。

紙面に対するご意見・ご要望等ありましたらお寄せをお願いします。

法土会報編集委員 三村 卓（1994年卒）